MEPHIST
メフィスト「妖殺異形伝」

いかに進んだ考えを持った人間も……

神秘なるものに対する思いを捨て去ることは出来ない。

——— ファウスト博士 ———

はじめに

この度は超伝奇バイオレンスアドベンチャー『MEPHIST（メフィスト）』をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
ゲームをプレイされる前に、このマニュアルをぜひご一読下さい。特に、ハードに関する注意事項を熟読し、正しい方法でプレイするようにして下さい。誤った操作はディスクの破損など、アクシデントの原因となります。
なお、本マニュアルには、MEPHIST（メフィスト）の世界に関する設定も掲載してあります。合わせてご覧いただければ、より一層ゲームを楽しんで頂けるかと思います。

では、MEPHIST（メフィスト）の世界、とくとお楽しみ下さい。

パッケージの内容

『MEPHIST（メフィスト）』のパッケージには、以下のものが入っています。
全てそろっているか、確認して下さい。

1. フロッピー・ディスク
   PC-8801版……6枚
   PC-9801版……3枚

2. マニュアル（本書）……1冊

3. ユーザーはがき……1枚

4. シール（ヒント券込み）

注：マニュアルとユーザーはがき、シールは、88、98とも共通です。

起動方法

ゲームの起動方法はハードの機種によって異なります。ご使用のハードを確認してから以下の通りに起動して下さい。

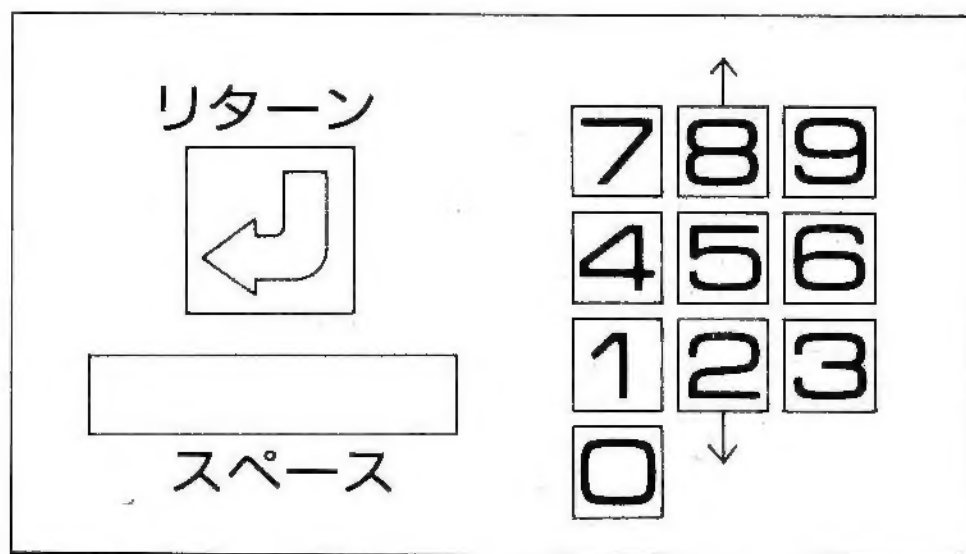
1．PC-8801版

本体のモードをV２にセットします。
ディスクAをドライブ１に、ディスクEをドライブ２にセットし、電源を入れて下さい。オープニングデモが始まります。
デモを飛ばしたい時は、スペースキーを押すとその場でオープニングデモが中断し、ゲームが始まります。
また、ドライブ１にディスクAを、ドライブ２にディスクBをセットして電源を入れると、オープニングデモを飛ばしてゲームを始められます。
ゲーム中にディスク交換の必要があるときは、画面に指示が出ますので、それに従って下さい。

2．PC-9801版

ディスクAをドライブ１に、ディスクBをドライブ２にセットし、電源を入れて下さい。オープニングデモが始まります。
デモを飛ばしたい時は、スペースキーを押すとその場でオープニングデモが中断し、ゲームが始まります。
ゲーム中にディスク交換の必要があるときは、画面に指示が出ますので、それに従って下さい。

あなたは超常現象処理組織MEPHIST（メフィスト）のフリゲーター（エージェント）龍堂牙蘭（りんどうがらん）となって、冒険を始めるのです。

操作方法

　このゲームは、コマンド選択によって進行するアドベンチャーゲームで、テンキーとスペースキー、リターンキーで一切の操作をします。

1．テンキー（2、8、0）
　コマンドを選択する時に使用するキー。
　テンキーの2、8でカーソルを上下させます。
　0のキーでコマンドをキャンセルすることが出来ます。

2．リターンキー
　選択したコマンドを決定するキーです。
　一度決定したコマンドも、テンキーの0を押すことによってキャンセルすることが出来ます。

3．スペースキー
　テンキーの0同様に、このキーを押すことによってコマンドをキャンセルすることが出来ます。
　また、画面の指示（PUSH SPACE KEY）があったときにこのキーを押します。

画面説明

『M̊EPHIST』(メフィスト)は、通常画面（上の画面です）と、ビジュアル画面によって進行します。

1．メイン・スクリーン
　グラフィックが表示される画面です。
　主人公、龍堂牙蘭(りんどうがらん)が見たものや、その場その場の状況など、視覚的なデータが表示されます。

2．メッセージ・エリア
　文章が表示される場所です。
　会話を中心とした状況説明など、文章で表現される全てのデータが表示されます。

3．コマンド・エリア
　主人公、龍堂牙蘭がその時に行動出来るコマンドが表示される場所です。
　ここに表示されるカーソルを操作、決定することによってゲームが進行します。

コマンド説明

このゲームは、コマンドを選択する方式のアドベンチャーゲームです。ここでは、主に表示されるコマンドを説明しましょう。

▶見る／調べる
画面上のものや、アイテムなどを、見たり調べたりする時に使用するコマンドです。
続いて、何を調べるか選択して下さい。
▶話す／聞く
画面上の人物（独り言も含めて）と話をする時に使用するコマンドです。
続いて、誰と、何を話すかを選択して下さい。
▶移動
外の場所に移動するときに使用するコマンドです。
続いて、どこに移動するかを選択して下さい。
▶取る
ものを取るときに使用するコマンドです。
続いて、何を取るかを選択して下さい。
▶見せる
他人にものを見せるときに使用するコマンドです。
続いて、何を見せるかを選択して下さい。
▶使う
アイテムを使用するときに使用するコマンドです。
続いて、何を使うかを選択して下さい。
▶戦う
画面上の人物／怪物と戦う時に使用するコマンドです。
戦闘シーンについては、【戦闘シーン】で説明します。
▶持ち物
自分が今現在持っているアイテムを表示するコマンドです。
▶システム
表示速度の変更、データのセーブ／ロードを行うコマンドです。
それぞれ画面の指示にしたがって下さい。
なお、このコマンドは、メフィスト本部の司令室でのみ使用出来ますので、ご注意下さい。

戦闘シーン

『MEPHIST（メフィスト）』は、“C.A.S.（キャス）”という独自の戦闘方式を採用しています。これは、敵味方お互いのアクションをアニメーションでダイレクトに表示していくという方式で、これによって迫力のある戦闘シーンを実現しています。

しかし、あなたは面倒な操作を行う必要は一切ありません。通常のゲームと同様、簡単なコマンド選択を行うだけで良いのです。

進行の手順

戦闘は、以下の手順で進行します。

1．攻撃方法入力

まず、何を使って攻撃するかを選択します。

拳銃、格闘、アイテムの中から選択して下さい。

2．攻撃箇所入力

次に、敵のどこを攻撃するかを選択します。

頭、胸、胴、腕、脚の中から選択して下さい。

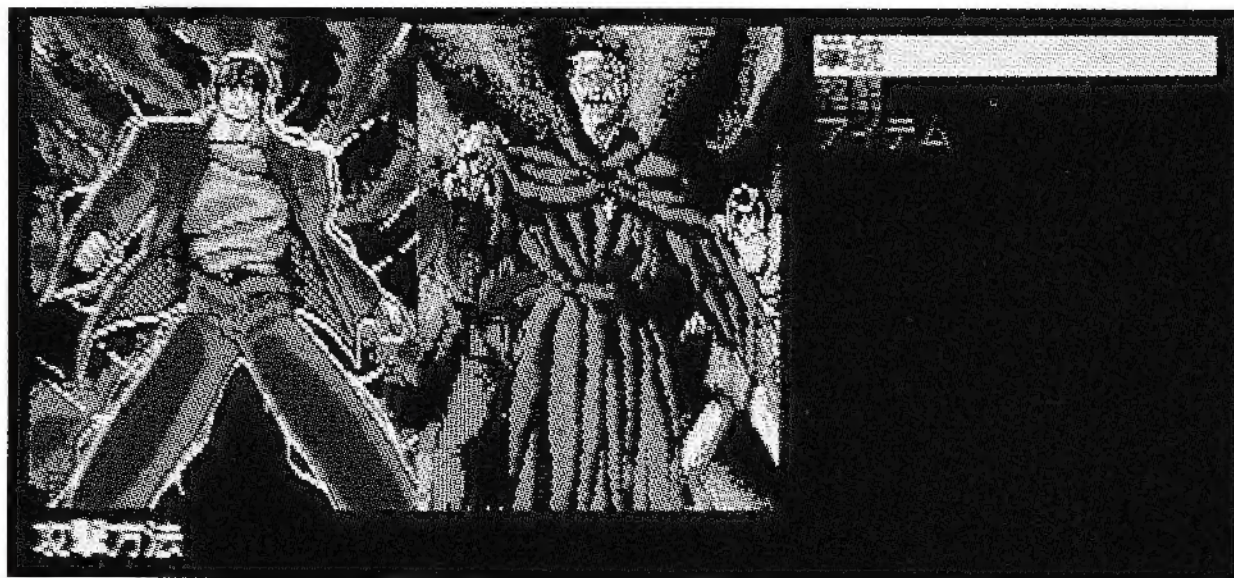
3．攻撃

龍堂牙蘭が、ダイナミックなアクションで敵を攻撃します。

4．結果

こちらの戦闘が適切なら、敵にダメージを与えます。もしも、こちらの攻撃が相手の弱点を外せば、敵の反撃があり、龍堂牙蘭がダメージを受けます。

以上の手順をくりかえしていき、龍堂牙蘭が3回ダメージを受けるか、敵が死ぬまで攻撃は続きます。

注：一度戦闘シーンに入ると、決着がつくまで逃げられません。取り返しのつかない事にならないよう、こまめにセーブをしておくことをお勧めします。

ユーザーサポート

製品の不良が考えられる場合は、お手持ちの機種名及び、周辺機器名と住所、氏名、電話番号、そして詳しい症状をお書き添えの上、パッケージごと当社「MEPHIST（メフィスト）」ユーザーサポート係までお送り下さい。症状を検討の上で、良品と取り替えさせて頂きます。
　なお、お客様のミスによる不良の場合には、規定の交換料を申し受けますので、悪しからずご了承下さい。

　ゲームの内容に関する質問は、官製往復葉書にヒント券を貼り、場面や状態、質問内容などを詳しくお書きのうえ、当社ユーザーサポート係までお送り下さい。担当者が検討のうえで、ご返答致します。
　電話による質問及び、ユーザーはがきをお送り頂いたお客様以外の質問には、誠に勝手ながらお答え出来ません。なにとぞご協力の程をお願い致します。

　ユーザーはがきをお送り頂いたお客様は、ユーザーサポートの為に登録させて頂いております。登録されたお客様には以後予定しているサポートを優先的に受けられるようになりますので、ユーザーはがきは極力お送り下さいますようお願い致します。又、ユーザーの方々の意見の一つ一つが、これからのゲーム作りの参考となって行きます。当社作品に対するご意見なども、心からお待ちしております。

今後予定されているサポート

1．ユーザー会誌の発行
2．様々なプレゼントの進呈
などです。

　当社は、当社が著作権を有するソフトウェアの複製行為及び、賃貸（レンタル）行為について、これを一切許可しておりません。
　これに違反した場合は、懲役、又は罰金が課せられます。

STAFF

GAME DESIGN
永井ゴーン

PROGRAM
極楽不動(PC-8801)
清水健司(PC-9801)

GRAPHIC DESIGN
U-ME(総指揮／キャラクター・デザイン)
木戸亮介(メカニカル・デザイン)

INSTRUCTION MANUAL
永井ゴーン&バヨーン企画

MUSIC COMPOSE
ミュージカル・アーツ

COVER ILLUSTRATION
友部晴仁

PRODUCE
総裁X

SPECIAL THANKS
すとれぽんちょ浜田

設定資料 【物語】

1990年5月、ニューヨークを極地的な豪雨が襲った。豪雨は、きっかり30分で止み、後には雷に打たれた三人の犠牲者が残った。

超常現象処理部隊、通称M.E.P.H.I.S.T.(メフィスト)の探査衛星S.A.D.S.(サドス)のセンサーが、その雷雲の中に異常な反応を確認した。

この豪雨は、自然現象ではない。事態の重要性を重くみたメフィスト本部長ジョージ・ロイスは、この現象を調査、解決するために、一人のフリゲーター(エージェント)を送りだした。彼の名は龍堂牙蘭。メフィスト本部の中でも屈指のフリゲーターである彼は、折しもその年メフィスト極東支部から配属されたばかりであった。

調査を開始する牙蘭に次々と襲いかかる妖魔。そして、別世界から召還された魔人、妖人達。

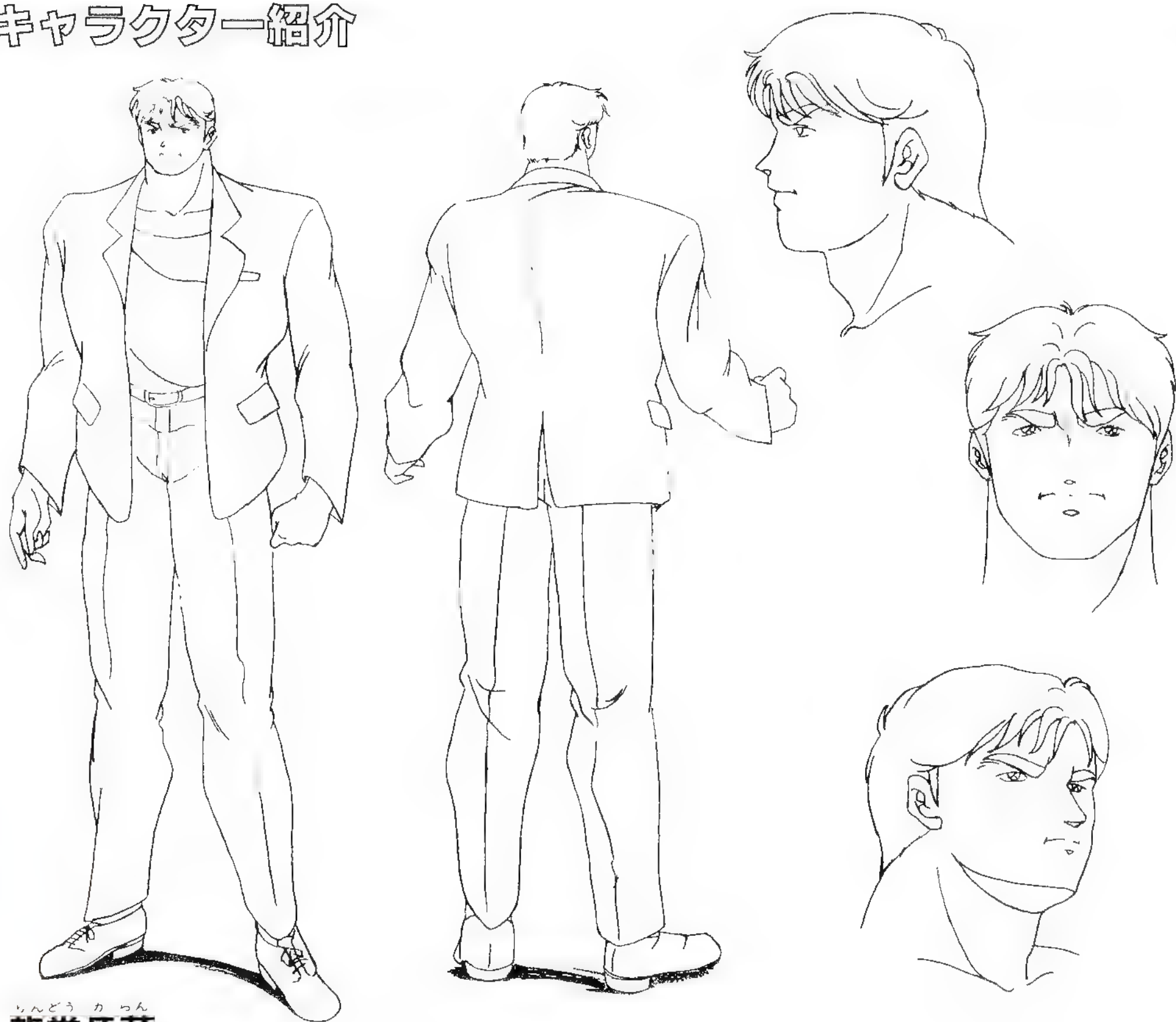
この事件の真の姿は?

そして、真の敵は?

今、人類の存亡を賭けた戦いが始まった。

人物 対比図

ジョージ
ガスター
ニールセン
カイン
ベン
メアリー
アンジェラ
牙蘭

キャラクター紹介

龍堂牙蘭

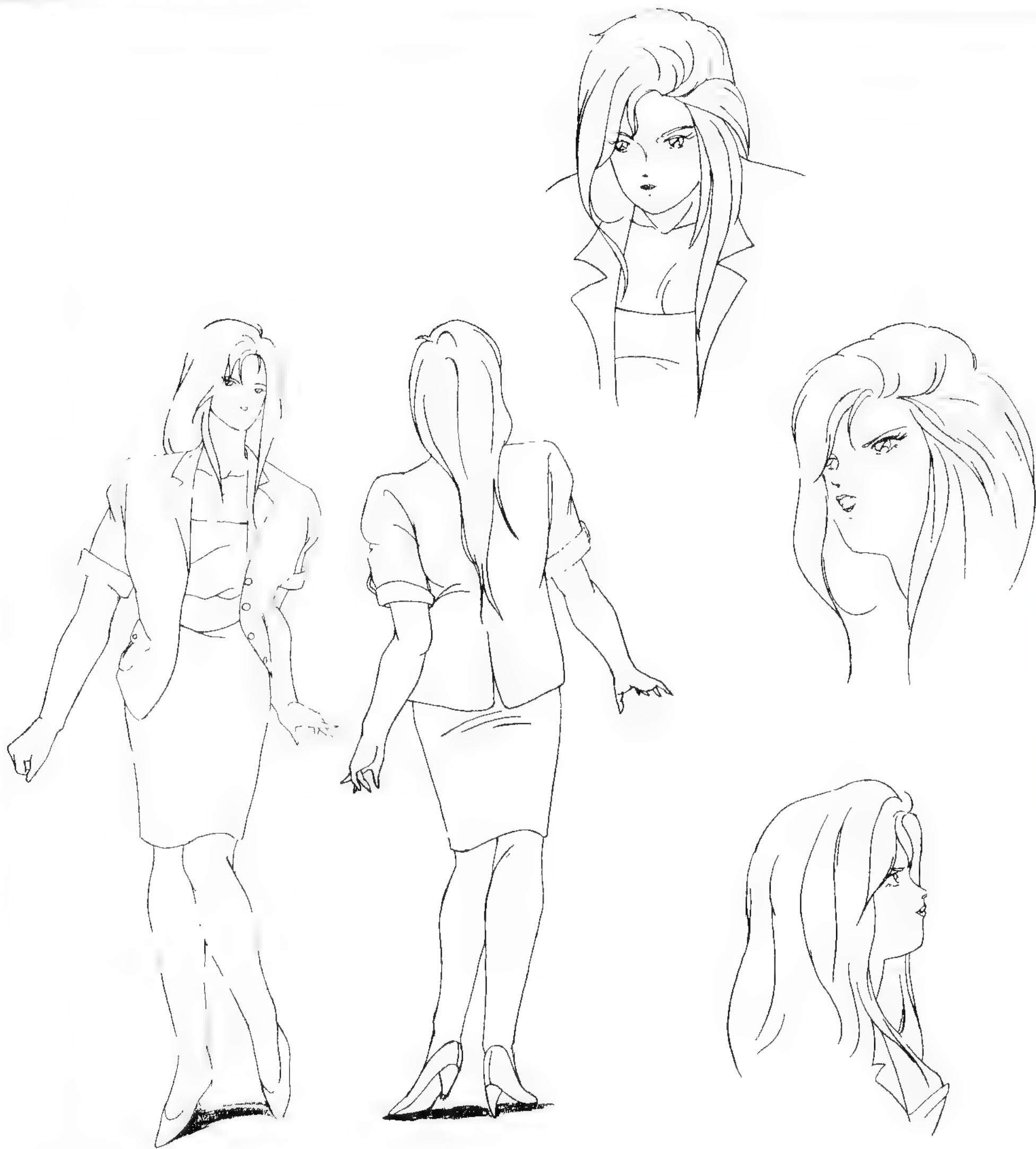
二十四歳、日本人。

本ゲームの主人公。MEPHIST極東支部からニューヨーク本部に転属されたフリゲーター（エージェント）で、その実力は本部内でもトップクラスの凄腕である。

頭脳明析、スポーツ万能のイイ男。特筆すべきはその射撃の腕前で、抜き撃ちで百メートル先の林檎を撃ち抜く。

また、限定された意味での霊媒能力の持ち主で、自分が“処理”した魔物に限って、その魂を冥界から呼び戻すことが出来る。だが、この能力を使うには、膨大な体力、精神力を必要とするために、多用することはできない。

彼が何故このような能力を持っているのか定かではないが、それは後に明らかにされていくだろう。

女好きで、色じかけに弱い。

アンジェラ・ウエントン

23歳、アメリカ人。

落雷事件調査のために、CIAから派遣されてきた腕利きの女エージェント。

龍堂牙蘭に興味を持ち、彼と行動を共にすることになる。

ワンマン的なところがある行動的な美女で、それが災いして牙蘭の足を引っ張る場面もある。

ジョージ・ロイス

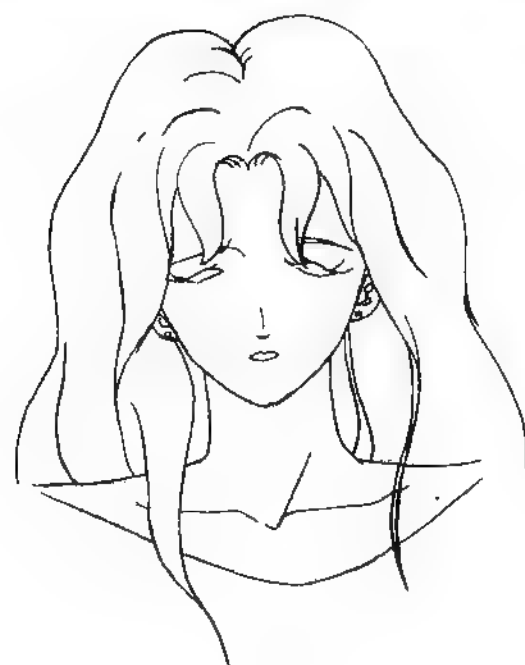
四十五歳、アメリカ人。

MEPHISTニューヨーク本部所長。MEPHISTの頂点に立つ男である。

本部内では常に紋付袴を着用するほどの無類の日本好きである。

二メートルを優に越す筋肉質の巨漢で、これが災いしてか（それとも日本気違いのためか）、未だに独身である。

ごつい外観から恐い印象を受けるが、根は優しい良い親父さんである。

ゲイシャをはべらしてフジヤマに登り、スシを食べながらハラキリを見物するのが生涯の夢で、MEPHIST本部のワンフロアーを、そのまま日本庭園に改造、部長室にしている。

ニールセン

龍堂牙蘭の前に現れる謎の美女。

ベン・J・リンカーン

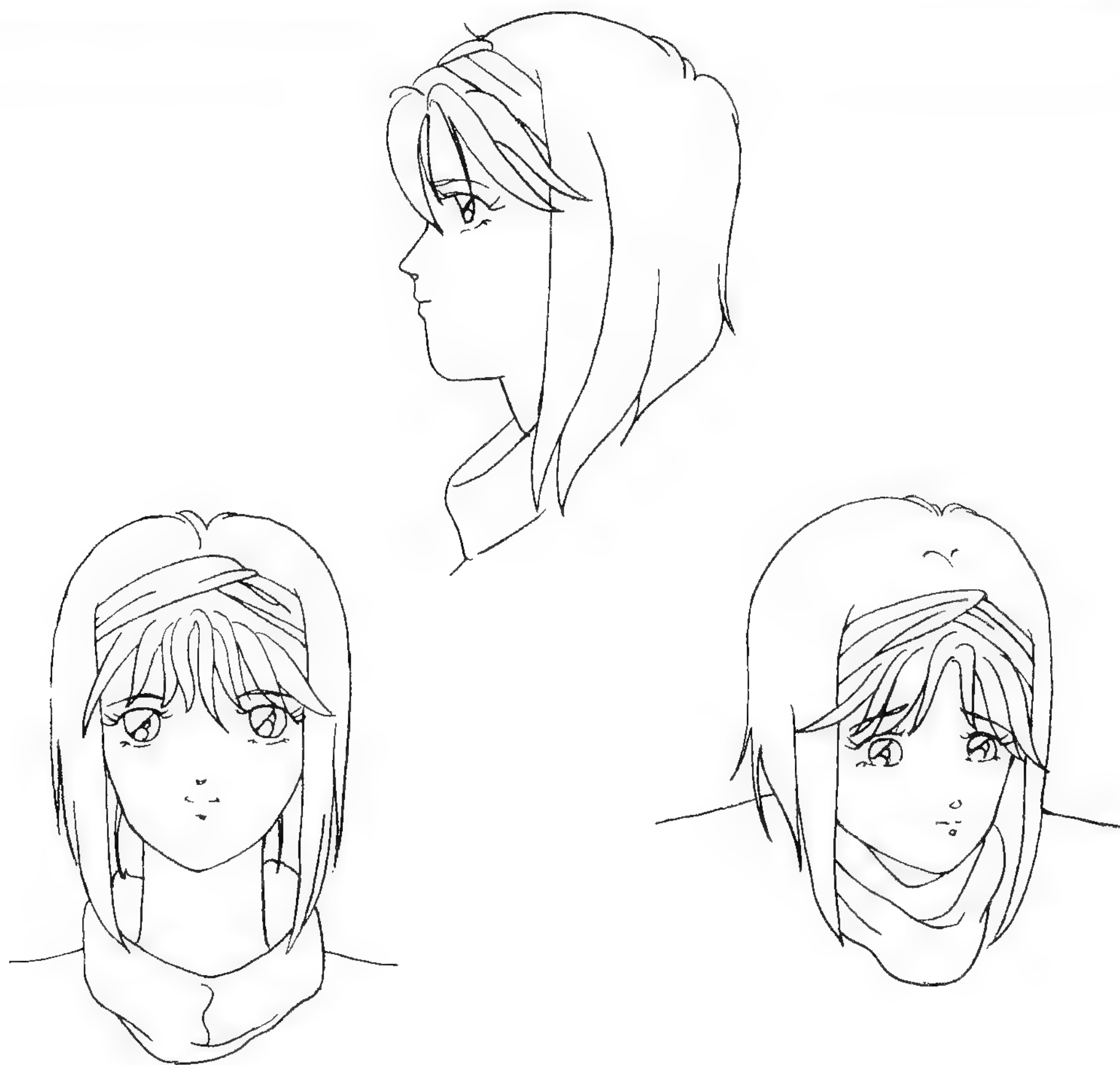
65歳、ユダヤ人。

MEPHIST兵器開発部門部長。

フリゲーター達が任務遂行中に使用する数々の装備を設計、制作するのが彼の仕事である。

短い期間と限られた予算で、実に多彩な装備を作り上げるが、その七割が、まったくの役たたず。とはいえ、彼の作った装備なしにはフリゲーターの任務は遂行し得ないと言っても過言ではない。

少々マッドサイエンティスト的な部分もあり、部下の所員達から恐れられているが、重度の爺馬鹿でもある。

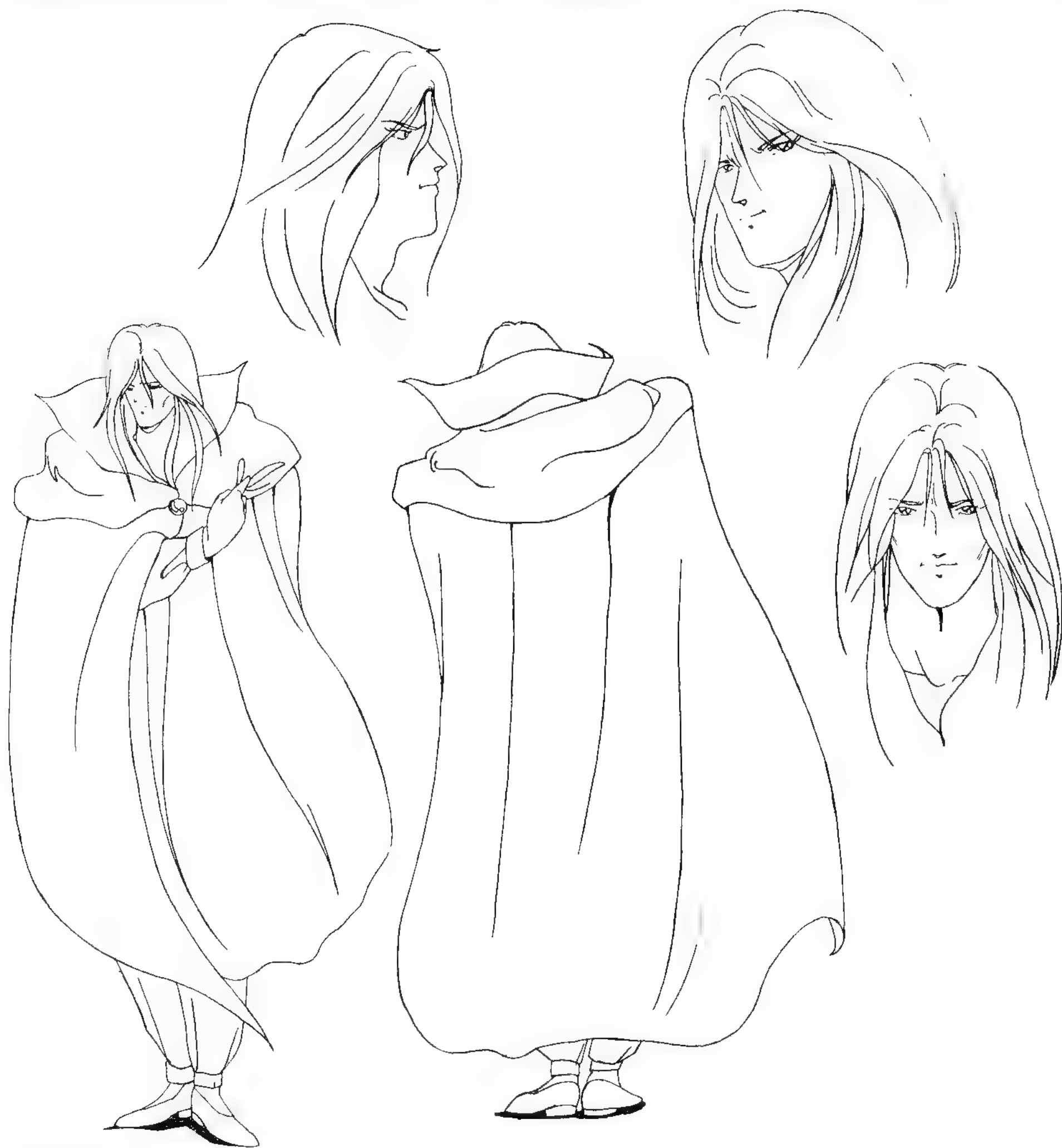
いつの日か巨大ロボットを作り、孫娘のメアリーにプレゼントしようと思っているが、まだ設計のめどすら立っていないのが現状である。

メアリー・リンカーン

18歳、ユダヤ人

MEPHIST兵器開発部門受付兼お茶汲み兼マスコット。

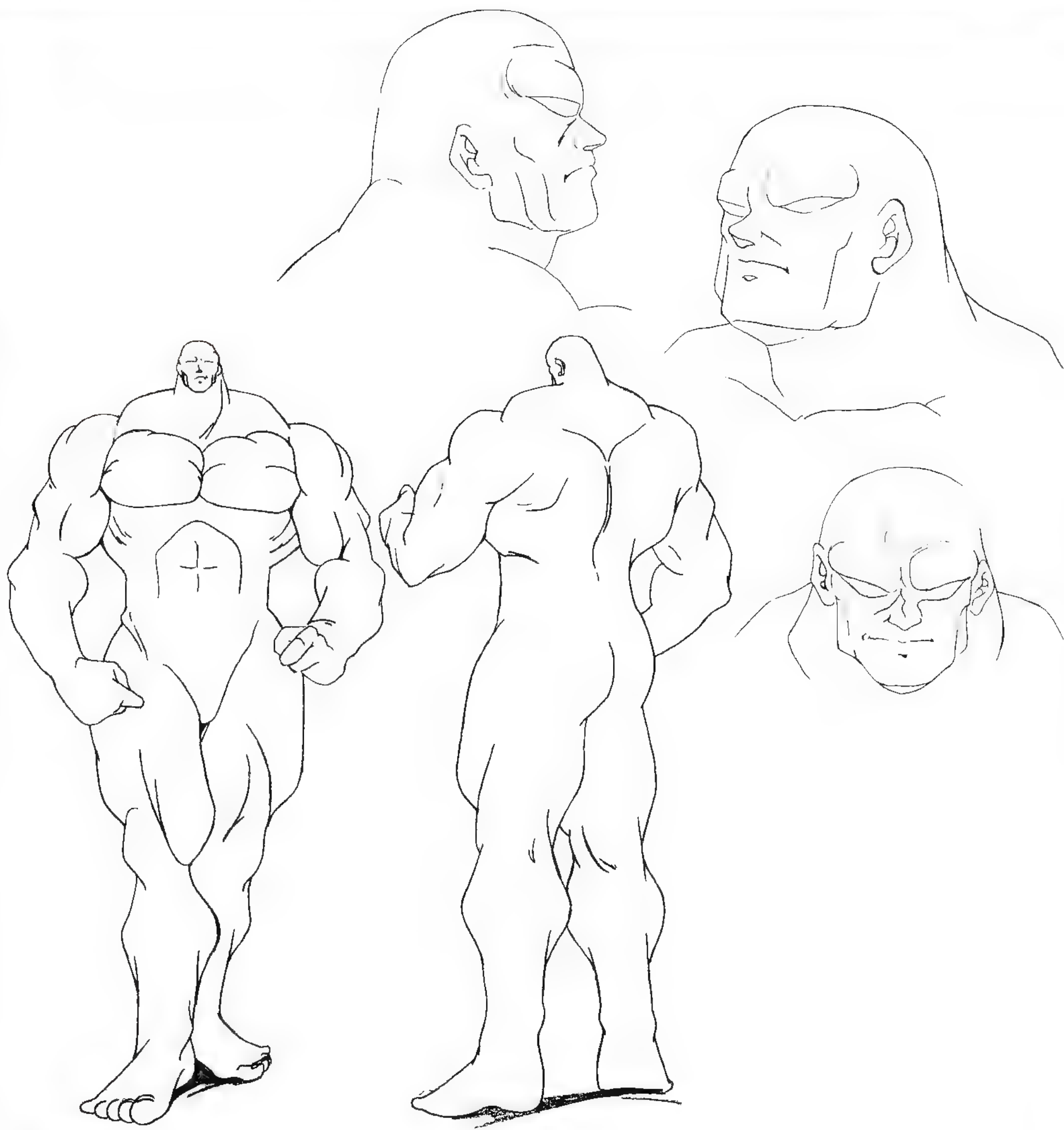
彼女はベン・J・リンカーンの孫娘である。エージェント達に装備を渡し、その装備の説明をするのが彼女の役目だが、その他開発部門内の雑用も一手に引き受けている。

その頭の良さは祖父譲りで、十四歳でミスカトニック大学を卒業する。MEPHISTに来たのもベンの推薦である。

数年後が楽しみな美少女で、開発部門内でも可愛がられている。

カイン

長身、黒衣の壮麗な若者。通称“魔導士カイン”

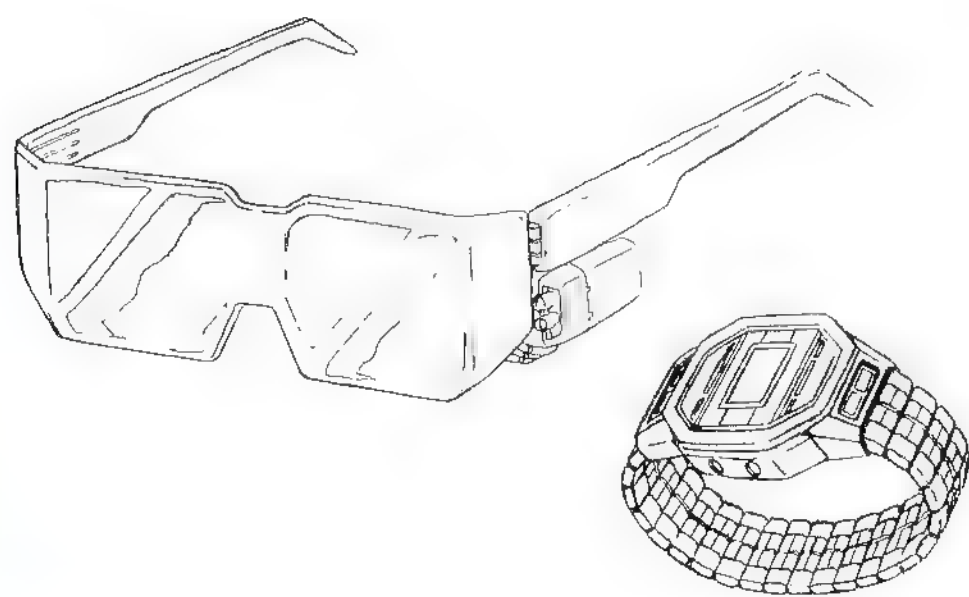
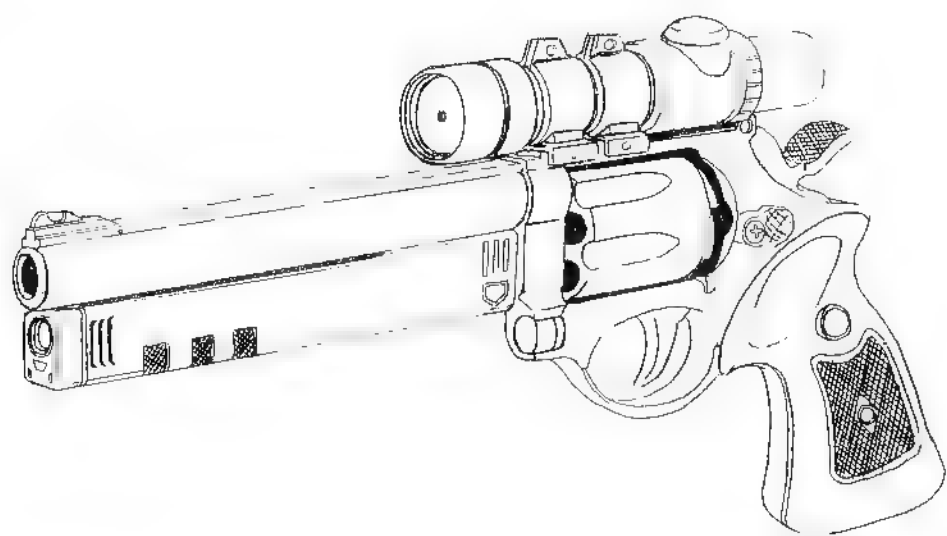
強力な催眠能力を持ち、相手が生物でも、無生物でも、たとえ妖魔であったとしても、自らの意のままに操ることが出来る。

また、その手には一本の凧糸が握られ、その一閃は戦車の装甲板すら断ち切ることが可能である。

ガスター

カインの仲間、通称“大地のガスター”

大地からエネルギーを得て行動し、両の足が大地を踏みしめているうちは事実上無敵で、如何なる手段を持ってしても彼を殺すことはおろか、傷一つ付けることすら出来ない。

４メートルを優に越す巨漢である。

メカニックの説明

防弾服

MEPHIST兵器開発部門が開発した防弾スーツ。　チタン鋼の繊維を織り上げた生地の間に、MEPHIST特製の衝撃吸収材をサンドイッチしてある。

その防御効果は絶大で、ウヅィサブマシンガン(九ミリ口径銃弾)の直撃程度なら、蚊が刺したほどにも感じない。

また、刃物には弱いという今までの防弾服の常識を覆し、刃物に対する（突く、斬るなど）防御効果も完璧である。

重量も二キロと全身を覆うものとしてはとてつもなく軽く、関節部分も特別の考慮がなされていて、動きの邪魔になることは一切ない。

拳銃

MEPHISTで使用される銃器は、基本的に電磁誘導を用いて弾丸を射出するコイルガン(レールガン)方式が用いられている。この方式の利点は、口径さえ合えばいかなる種類の弾丸をも射出することが出来る点にある。また、射出時の反動、騒音も火薬式の拳銃に比べて格段に押さえることが出来る。銃の形態は、各フリゲーターの好みによってオーダーされる。龍堂牙蘭の使用している銃は、S&W(スミス&ウエッスン)・M259リボルバー44マグナム拳銃のコピーである。

情報収集機器(サングラス&腕時計)

フリゲーターは、特殊な状況における情報をより得られやすくする為に、独自の情報収集システムが与えられる。サングラスに仕込まれた各センサー、アクティブ／パッシブ両面をサポートするソナー。サングラスから送られた情報を処理、月面のメインコンピューター“アルテミス”に送信する腕時計型のブースターがその構成である。また、ブースターは通信機も兼ね、フリゲーターとMEPHIST本部とを常に結んでいる。

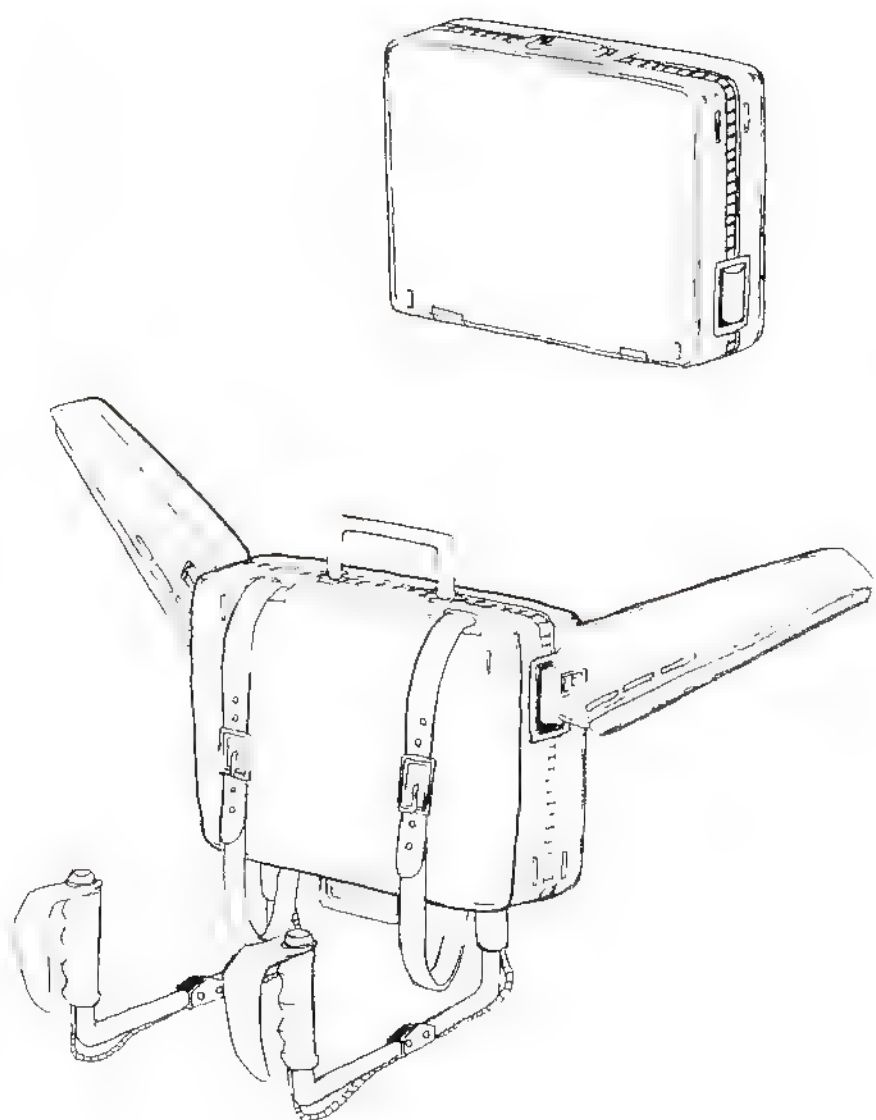
ロケットパック

MEPHIST兵器開発部門が開発した一人用飛行システム。ランドセルのように背中に背負い、そこから伸びたスティックを操作することによって空中に浮かび上がる。ロサンゼルスオリンピックの開会式に空から登場し、全世界の人々をあっと言わせたあの“ロケットマン”が背中に背負っていた物の改良型であると思えば良いだろう。

一番の特徴は、その小型な造りにある。折り畳むと、アタッシュケースに偽装できるほどコンパクトなのだ。重さもわずか二十キロである。

しかし、液体水素を燃料とするために、非常に不安定な代物で、安全を保証できる滞空時間がたったの十五分。そのために、とっさの時の脱出手段としてぐらいしか使い道がないのが現状である。

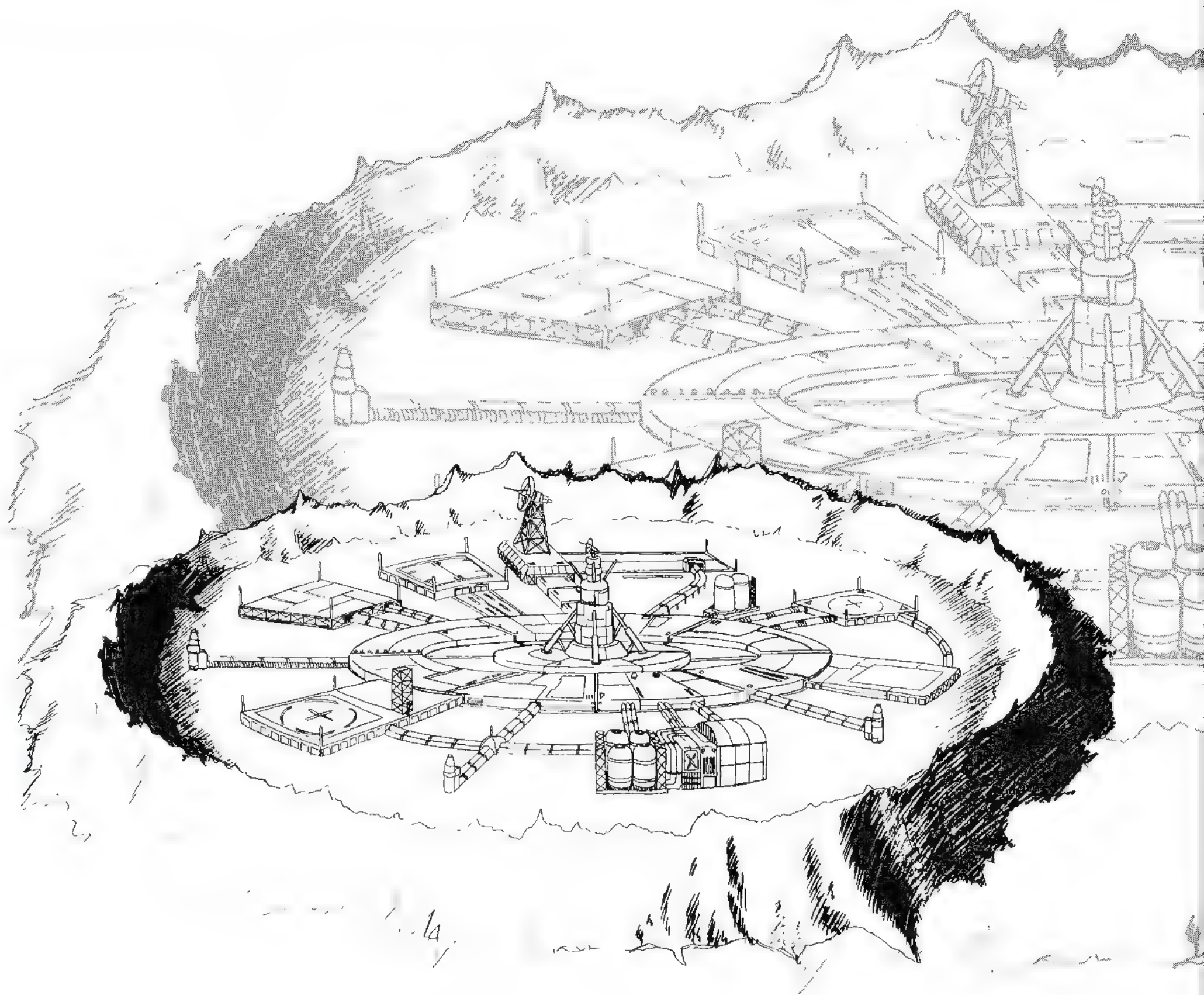
武器として、小型のペンシルミサイルが十発装備されている。

愛称はバーニング・クラッカー(燃える爆竹)

ペーパー・グレネード

MEPHIST兵器開発部門が開発した携帯用グレネードランチャー。

普段は週刊誌を装った紙束と、缶ジュースサイズの缶に分けられている。使用するときには紙束を丸めて砲身を作り、その中にリングプルを取った缶を入れて尻の部分を地面にたたきつければいいのである。缶がグレネード弾となり、目標物を粉砕する。

細かい目標を付けることは不可能に近いが、その威力は絶大で、ちょっとした建物なら一発で吹き飛ばしてしまう。

愛称はトムボーイ（おてんば娘）

ムーンベース

MEPHISTが誇る月面基地。それがムーンベースである。

NASAの協力を得て月面のプラトー・クレーターに建造されたこの基地は、完全な無人基地で、二十四時間体制で活動している。

主な任務は、多目的衛星SADS（サドス）を使用しての地球の監視や、世界各国からの情報を集め、これを処理、MEPHIST本部に送信する事などである。

完璧なシールド処置を施されたムーンベースの地下には、スーパーコンピューター“アルテミス”が設置されている。アルテミスはペンタゴンのメイン・コンピューターの二十倍の性能を誇り、MEPHIST本部にリンク、常に適確な情報を送り続けている。

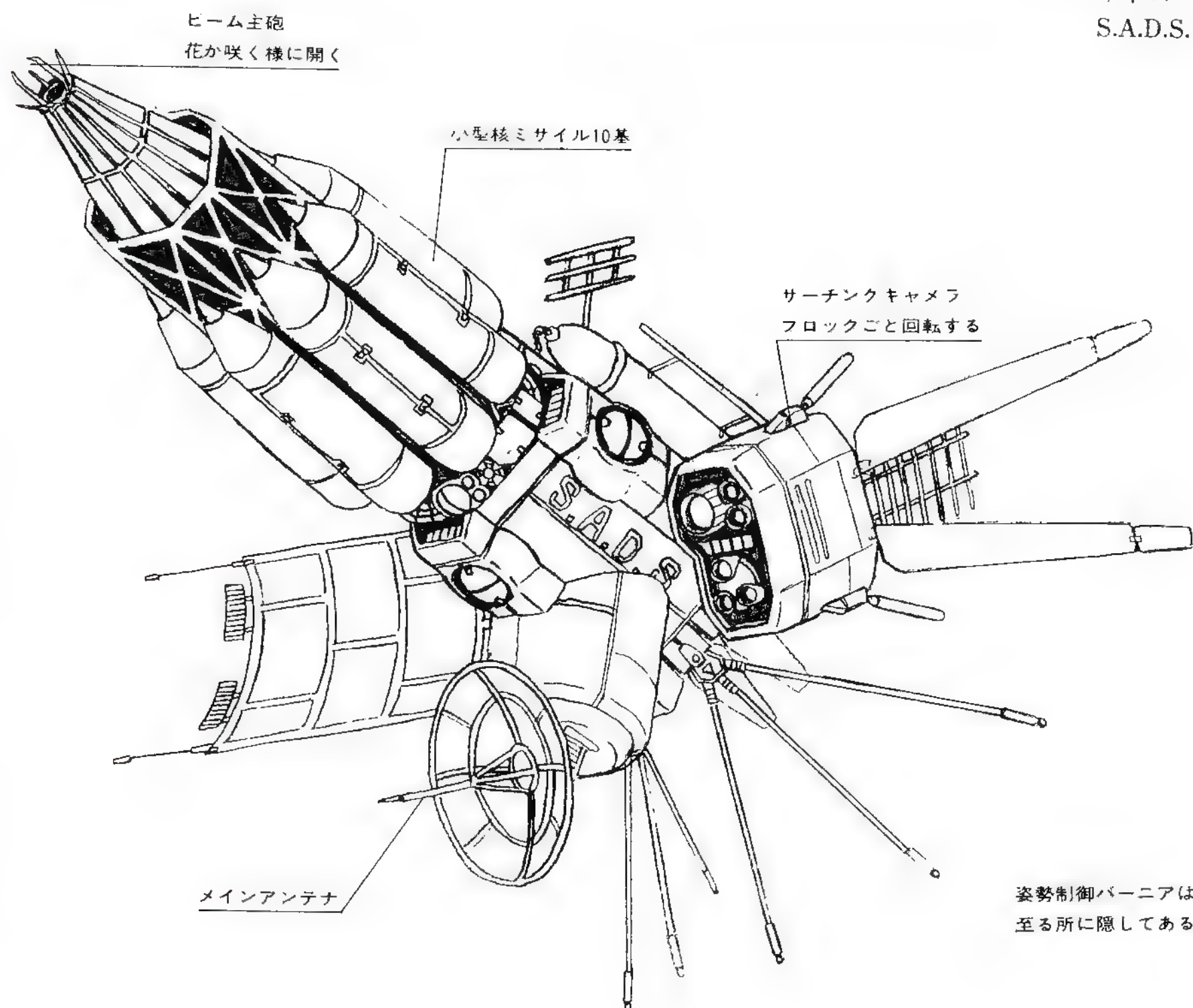
サドス
S.A.D.S.

ビーム主砲
花か咲く様に開く

小型核ミサイル10基

サーチンクキャメラ
フロックごと回転する

メインアンテナ

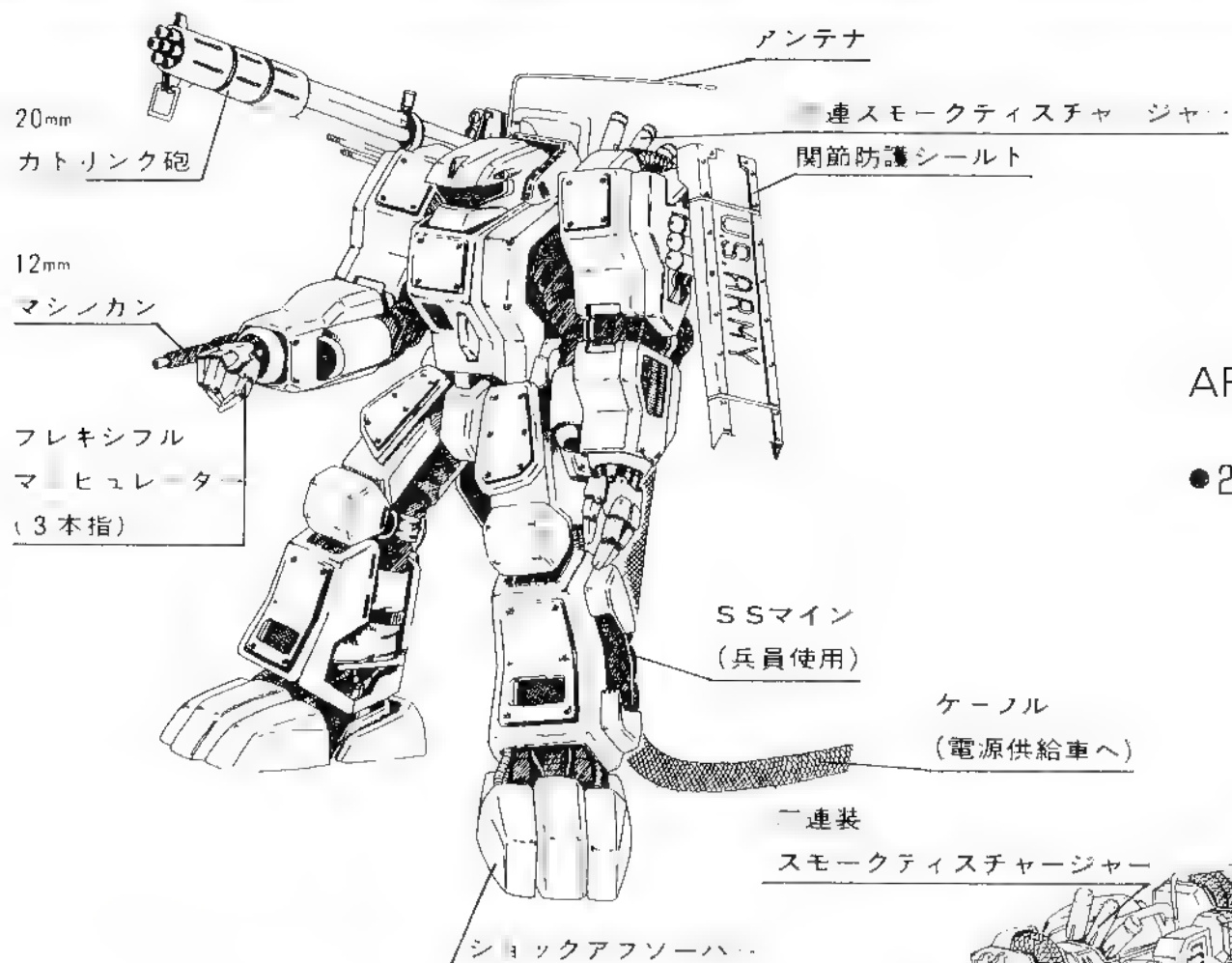
姿勢制御バーニアは
至る所に隠してある

SADS(サドス)

MEPHISTの誇る多目的衛星。

Search And Destroy a Sateliteの略称である。

一機のSADSは偵察衛星、通信衛星、早期警戒衛星、電子情報衛星、戦闘衛星としての全ての機能を持ち、その電子の眼を地上に向けている。

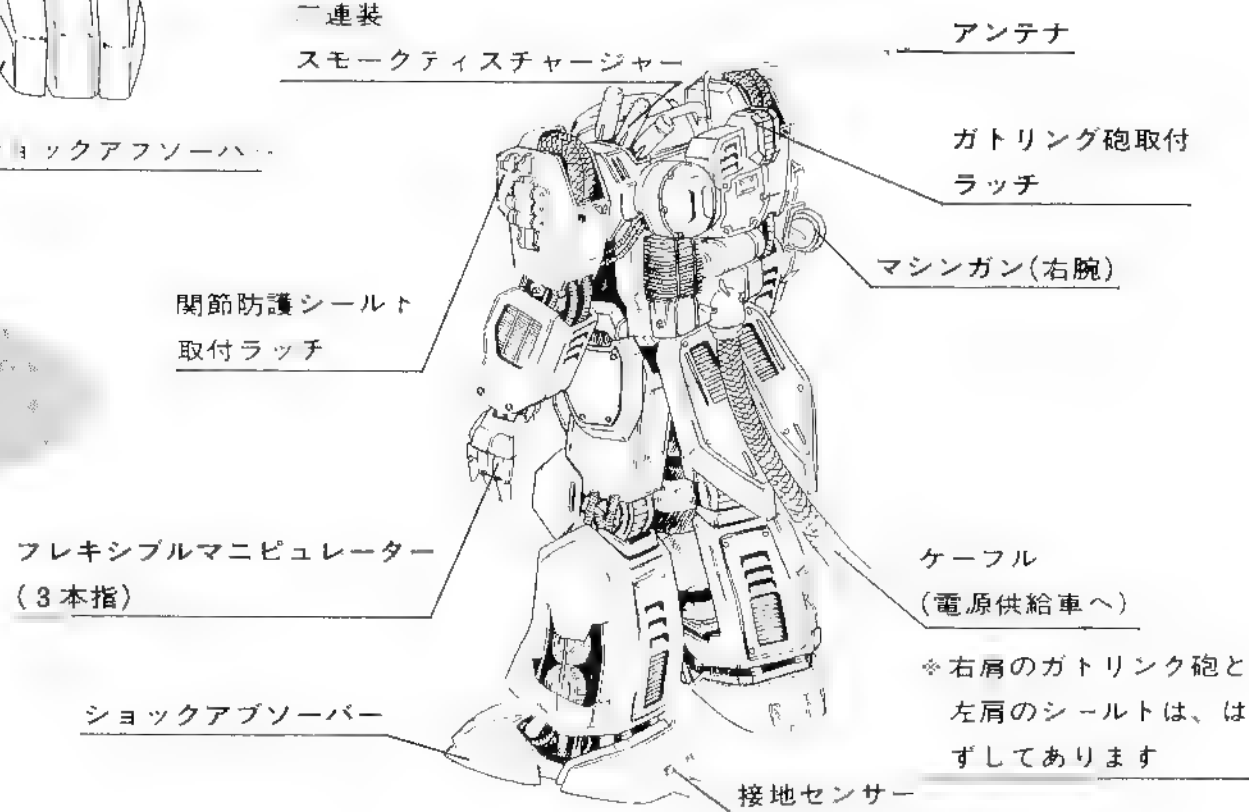
SADSは人が乗り込むことも出来るが、基本的には無人衛星で、コントロールはムーンベースを通じて本部で行われている。現在、地球の衛星軌道上には、二十機のSADSが存在している。

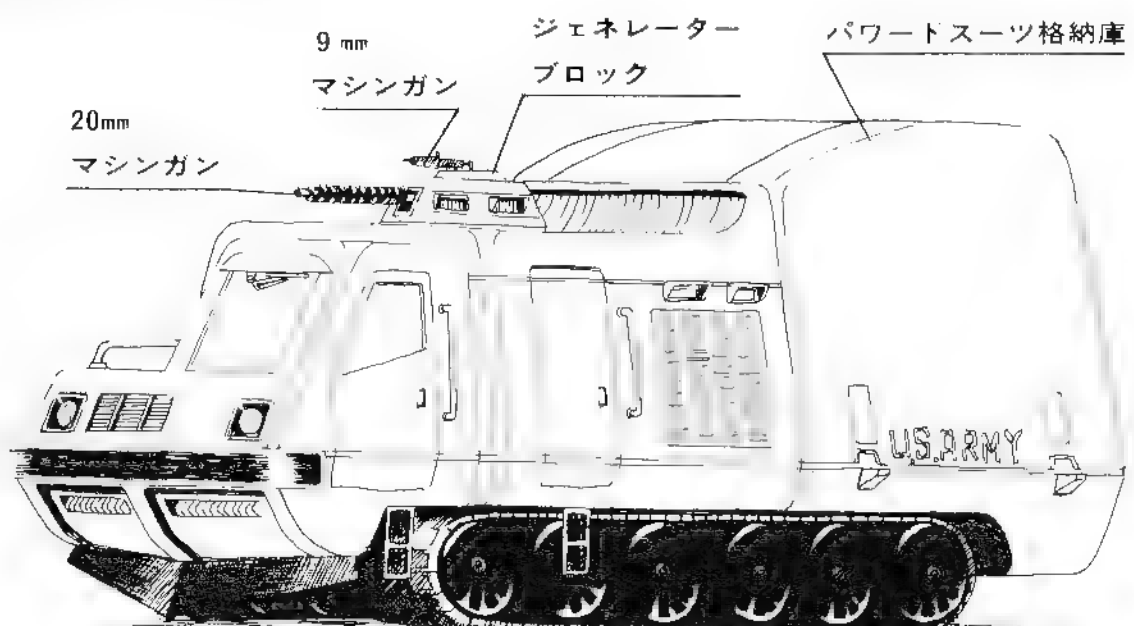
基本武装は、地上攻撃に対して誤差プラスマイナス三十センチという精度を誇る荷電粒子ビームと、十基の核ミサイル、五十基の電子ホーミングミサイルである。

パワードスーツデータ

M-916 POWERED SUIT
DATA
HEIGHT 2.45m
WEIGHT 6.26t
POWER 3045HP
ARMORED THICKNESS 4~10.25mm
ARMS
- 25mm Gatlingtype machine gun×1
- 12mm Machine gun×1
- Smoke discharger×3
- S.S.Mine×6
- Flame launcher(Option)
- Nuclear missile(Option)

アンテナ
連スモークディスチャ　ジャー
関節防護シールト
20mm
カトリンク砲
12mm
マシンガン
フレキシフル
マ　ヒュレーター
（3本指）
SSマイン
（兵員使用）
ケーフル
（電源供給車へ）
ショックアフソーハー

POWERED SUIT
FRONTVIEW

二連装
スモークディスチャージャー
アンテナ
ガトリング砲取付
ラッチ
マシンガン（右腕）
関節防護シールト
取付ラッチ
フレキシブルマニピュレーター
（3本指）
ケーフル
（電源供給車へ）
ショックアブソーバー
※右肩のガトリンク砲と
左肩のシールトは、は
ずしてあります
接地センサー

電源車データ

M-926 SUIT SUPPLY SYSTEM & TRANSPORTER
DATA
LENGTH 7.6m
WIDTH 2.6m
HEIGHT 3.3m
WEIGHT 74.9t
ARMS
- 20mm Machine gun×1
- 9mm Machine gun×1

戦闘強化服の現状

解説　リンダ・バート

戦闘車両に兵士が乗り込むのではなく、兵士に装甲をまとわせてしまう。こうした“マン・マシーン”構想は、1960年代から軍事関係者達の間で話し合われていたが、この構想が初めて実用化されたのは、それから三十年以上も後になってからである。

一般で語られる所の“パワードスーツ”の出現である。

パワードスーツを実現させることにおいて、敵装甲車両の砲弾の直撃に耐える強靱かつ軽量な装甲、一撃でトーチカの外壁を粉砕するパワーを持つかたわら、生卵をつかめるだけの繊細さを持ち合わせたマニュピュレーターの装備、少なくとも無装備の一般兵士以上のスピードを持たせる事の3点が最重要とされた。まず、第一の問題の装甲であるが、現用戦車に使用されているチョバム・プレートを改良したチタンと強化セラミックの複合装甲を使用、解決。第二の問題の強靱かつ繊細なマニュピュレーターも、1989年NASA（アメリカ航空宇宙局）が開発した宇宙船外作業用のマニュピュレーターを改良することで一応の完成を見た。

問題はスピードである。1989年6月に完成した試作機1号は、直進移動最高速度がわずか12km/hと鈍く、まるで使い物にならなかった。致命的なバランスの悪さも浮き彫りにされた試作機1号は即座に廃棄処分にされ、バランス面を含めて人体の徹底的な分析が行われた。

幾多の試行錯誤が行われたが、脳波探査機とジャイロをシンクロさせるバランサーが完成したのは、なんと1989年の暮れであった。何故これだけの短期間でこれだけの特殊装備を開発し得たのかは謎である（一部の情報では、とある科学者が一人で開発したらしいが、その科学者の名は定かではない）。

こうして完成した試作機二号は、M-916の機体ナンバーをつけられ、更なる改良が加えられた。

しかし、最大出力三千馬力をたたき出すこのパワードスーツには、致命的な欠陥があった。それはエネルギーの問題である。

パワードスーツ本体で消費されるエネルギーが余りにも膨大なため、それを賄う電源が本体に納まりきらなかったのだ。

現在、この問題を解決する方法がなく、外部に発電機を増設、そこで生産された電気を本体にケーブルで送るという方式に落ち着いているが、この方式だと機動力が殺されてしまう。改良が待たれる一面である。

発電機は装甲車に積まれ、同時にパワードスーツの移動、メンテナンスも行われるような装備も付け加えられた。これは機体番号をM-926と付けられた。

事実上、パワードスーツは速実用という訳には行かないが、今後の戦闘方式を考えていく上で、決して無視する訳には行かない兵器であるといえるだろう。

【解説者紹介】

リンダ・バート

1968年、アメリカ、カリフォルニア州に生まれる。1984年、カリフォルニア大学を卒業後、フランス外人部隊に入籍。厳しい戦場でサバイバル経験を積み、また厳しい訓練と実戦の経験から、生き残るための術に精通する。現在は軍事ジャーナリストの分野のみならず、少女向けの冒険小説の世界にも活動の範囲を広げている。

著書に『フランス外人部隊の秘密』『ザ・サバイバル～生き残りの秘術～』などがある。

MEPHISTとは

1990年。既に人類は超常現象調査組織M.E.P.H.I.S.T.を結成していた。その本部はニューヨークのとある公園の地下深く設立され、沈着冷静なジョージ・ロイス本部長の指揮のもと、日夜不可解な超常現象に挑んでいるのだ。　　　　（オープニングナレーションより）

メフィストは、ニューヨークに本部が置かれ、超自然現象、または超常現象が関わっている事件を秘密裡に捜査、解決することを目的に結成された集団である。1980年に国連の全面協力を得て結成されたこの組織は、一般に知られることはないが、世界中の（国連加盟国の90%）上層部の協力を得ることができ、その活動は事実上政府機関から黙認されている。その理由は、超高度な政治的問題が関わっている。

メフィストは、その行動の特殊さ故に強力な装備、武装などを行使する事が出来る。もちろんそれは超常現象に関係する出来事に対してのみではあるが、メフィストが有する戦力は、先進国一国分のそれに匹敵する。これは、もしも先進国の指導者が何かの事情でおかしくなった場合、その国自体を敵に回して問題に対処しなければならない事を想定してのものである。

ここで特筆すべきは、メフィストが活動するのはあくまでも“超常現象”に対処すべき事態に限定されるということである。メフィストは軍隊に近い一面を持ち合わせているが、軍隊ではないのである。

なお、M.E.P.H.I.S.T.（メフィスト）とは、

奇怪で	Mystery
風変りな	Eccentriciti
現象（を）	a PHenomenon
調査して	Investigation
解決する	Solve
チーム	Team

の略称である。

193?年………アメリカに火星人来襲、宇宙科学研究家G・カーと日本の修行僧幻乱之進の活躍によって撃退
1951年………国連の協力を得てMEPHIST設立。初代本部長G・カー
1962年………ホムンクルス“黄昏のマリーザ”処分
1965年………白木を射出する銃と日光を人工的に作り出す装置を開発する
1969年………C・グラント教授、バッキンガム公の幽霊とウインザー城で会見に成功
1972年………この次元と平行して存在する多層次元を発見する
1973年………いくつかの多層次元に知的生命体がいることを確認
1976年………多層次元の生命体とのコンタクトに成功。相互関係を保つ意味で条約が結ばれる。
1977年………ムーンベース建造開始。NASAの協力を得る
1978年………幽霊屋敷ポーリー牧師館を徹底解明する
1982年………吸血鬼トーマス・ド・ラ・クール伯爵とMEPHISTとの間に不可侵条約が結ばれる
1983年………ムーンベース完成。ムーンベース初代責任者M・カトウ
1984年………スーパーコンピューター“アルテミス”ムーンベースに設置
1985年………ムーンベース内の酸素が一瞬のうちになくなるという致命的な事故が起こる。これによってムーンベースは完全な無人基地となる。
1987年………日本で初めての次元獣と遭遇。フリゲーター龍堂牙蘭が処理に成功
1988年………中国赤峰(チーフォン)において、ゾンビが大量発生

男はのんきな声でそう言うと、懐から抜いた拳銃を茨木の胸にポイントする。それを見て、茨木は高らかに笑い出した。
「短筒カ？バカメ！ソンナ物ハ、我ニハキカヌワ！」
「本当に、そう思う？」
本堂の中に轟音が響き渡った。続いて苦しげな呻き声。
茨木が胸を押さえて苦しんでいる。弾が当たったのだ。
「バ、バカナ！」
「こいつの弾頭にはペンタグラムが刻んであってな。……本来は西洋の魔物向けの処置なんだが、不思議とこれが鬼にも効く。それから、お前さんの本名も刻んであるという寸法さ」
茨木から銃口をずらさずに、男が言う。
「オ、オノレ！」
「酒天童子が先に行って待ってるぜ。早く行ってやるんだな。鬼獄界へ」
銃声と絶叫がこだました。

少女が目を覚ますと、男は少女に鬼よけのまじないを施して、その場を立ち去った。
残された少女は、自らに掛けられていたジャケットを見て、男の名を知ることが出来た。
男の名は、龍堂牙蘭といった。

終

最終ページよりお読み下さい。▶

が建っていた。

男はこの寺を目指していたらしい。境内の近くにある大木にその身を隠すと、寺の中の様子を伺いだした。

その目は本堂を見ている。

男は懐からガーゴイルズを取り出すと、おもむろにそれを掛けた。

夜、しかも月明かりのみの状態で、サングラスが一体何の役に立つのか、男の目はそのまま本堂を見据えている。

微かだが、サングラスが音を発した。

短く、断続的に鳴るその音を聞きながら、男はガーゴイルズのツルを軽くひねった。

「………見つけたぞ。茨木童子」

変化した音を聞いて、男は微笑むと、本堂に向かってゆっくりと歩み始めた。

本堂の闇の中から、低い喘ぎ声が聞こえて来る。

あれの時の声であった。

戸口からさす月明かりで、声の主の姿が見えた。そして、声を上げさせている者の姿も。

寝室からいなくなった少女であった。獣の恰好で、大男に尻を与えている。

少女を貫いている大男は、鋼のような身体をしていた。手入れの、切されていない長髪は一様に逆立ち、その額には、とんでもない物が付いていた。

二本の角………鬼である。

「オマエハ、ワガ精ヲウケ、ワガ子ヲ生ムノダ。ワガ新タナ肉体ヲ」

鬼は、唸るような声で少女に語りかけた。少女は、鬼の言葉が聞こえているのか、しきりに頷いている。

と、鬼が体を震わせた。その震えは段々と激しくなって来る。少女は一声叫んで失神した。それを待っていたかのように、鬼が高く飛び上がった。

鬼のいた場所に銀光がきらめく。数本のナイフが床につき刺さっていた。

「ほう?色に狂っていても、戦闘本能は鈍っていないようだな」

着地した鬼は、おもしろそうに言う男の声に振り向いた。

「オノレ!マタ貴様カ!」

「そう。また俺だ。久しいな、茨木童子よ」

茨木童子と呼ばれた鬼は、一声大きく咆哮した。本堂がびりびりと震える。

「藤の花を使って妖術を使うのは、お前しかいない。とんだ所でぼけが出たなあ、茨木よ」

我がもとに来い。
我がものとなれ。
………と。
自分を呼ぶ声は一体誰のものなんだろう?少女はぼんやりと考える。が、その声を聞いていると、全てがどうでも良くなって来る。
声の主に身も心も全てゆだねてしまいたい。そんな気にすらなって来る。
声は更に大きく響いて来る。少女の心に。
オ……ン……ナ……。
我……ガ……モト……ニ……来……イ………。
………ワ……レ……ハ……バ……ギ……。
………あなたは誰?誰なの?
……誰……一体……?
少女の心に、強いショックが走り抜けた。稲妻が走り抜けたような衝撃に、少女の意識はブラックアウトした。
我ガモトニ来イ。………女ヨ。
〝呼びかけ〟が部屋の中に響き渡ると、少女はゆっくりとベッドから起き上がった。
意識を失っているのに、である。
ベッドのうえに立ち上がった少女の回りを、光が渦を巻きながらとりまきだした。
光の渦は、その密度と早さを増しながら、次第に少女の全身を覆っていった。
そして、その輝きが臨界に達した刹那、光の渦は少女もろとも部屋の中から消え去ってしまった。
あとから紫色の小片が舞い落ちていた。
藤の花びらであった。

—3—

今宵は満月である。
鬱蒼と茂る竹林の中を、疾風の様に走る影があった。
右、左、右、右。影はその速度を落とす事なく、立ち並ぶ竹を見事に避けて行く。
一体いかなる獣がこのような早さで疾駆できようか。その動きには、一片の乱れもない。
否、影は人間であった。茂みを越え、薮をくぐり、いずこかへを疾走するその影は、昼間少女を尾行していた男に外ならない。
一体彼は、どこに急ごうというのか?
竹林を抜けた。
鬱蒼とした竹の壁の向こうには、古ぼけた、しかし大きな寺

憑かれる、という言葉がある。そう、少女の様子は、正に何かに〝憑かれている〟といった感じであった。
突然、少女の歩みが止まった。そのまま首だけを巡らせて、辺りの人ごみを伺う。
その視線が道端にあるホットドッグスタンドで止まると、その目に困惑と恐怖の色が浮かんだ。
視線の先には、一人の男がいた。この暑さにもかかわらず、がっしりとしたその身体を麻のジャケットで包み、ガーゴイルズのサングラスを通して、こちらを見ている。男は、少女が自分を見ていることに気付くと、手にしたバドワイザーを掲げてにっこりと笑った。
少女は弾かれたように走り出した。先程までのりんとした様子は全くない。ただただこの場から逃れるためだけに身体が反応する。
男も走り出す。
少女を追うその動きは、風のように素早い。それ相応の訓練を受けたものの動きである。
5メートル……3メートル……
人ごみを縫って、その距離は確実に短くなっていく。
少女の姿が小路に消え、煥発を入れずに男もその小路に飛び込んだ。

一塵の風が吹き抜けた。冷たく、重い風が。
次の瞬間、少女はどこにもいなかった。
男の目前には、薄暗い袋小路があるのみ。逃げ隠れる場所は皆無だ。しかし少女の姿は、一瞬のうちに煙のように消え去っていた。
「テレポートか……味なまねをしてくれる」
男がぽつりとつぶやいた。少女が消えたのが当然と言わんばかりに、その顔には笑みさえ浮かべている。そもそも、この男は一体何者なのだろうか？
「……だが、これで逃げたつもりか？」
男はガーゴイルズを外して、虚空を睨みつけた。彼の頭上に、可憐な花びらが舞い降りてきた。藤の花であった。

—2—

少女は夢を見ていた。
いずこからか、誰かが自分に呼びかけてくる。
遠い、何処かの深淵から、自分を招いている。
いつの頃からだろうか、少女はたてつづけに同じ夢を見るようになったのだ。
声は少女に呼びかける。

魔がその身を棲まわせる場所には、一つの共通点がある。
人の意志が何かしらの形で作用している場所………と言えばいいだろうか。人の喜び、悲しみ、怒り、恨み、つらみなどが、残留エネルギーとなって吹き溜まる場所が、すなわち妖魔たちの寄る辺となる。
例えば………
ここ京都も、そんな場所の一つである。古来よりつちかわれし文化の息吹が魔を育み、魔は常に、人と共にある。

うだるような暑さの中、少女の歩みは確固とした意志をアスファルトに刻んでいた。歩行者天国の雑踏の中で、その人ごみをものともしていない。
少女の脇を通り過ぎる人々は、一様にその目を女に向けた。男達は、驚きと欲望が入り交じった目を、女達は、羨望と嫉妬が入り交じった目を。
少女は飛び抜けて美しいという訳ではない。だが、紅いワンピースをまとったまだ熟れきっていないその容姿は、それでいて確実に男を、そして女をも狂わせるフェロモンを発散していた。
少女は、その身に突き刺さる無数の視線を完璧に無視していた。まるで、人々の注目など気をとめるに値しない事の様に。